

令和7年度 第3回阪南市地域公共交通会議 会議録

【開催日時】 令和8年3月17日（火） 午後3時00分から開催

【開催場所】 阪南市役所3階 全員協議会室

【出席委員】 委員25名中、21名の出席の下、開催した。

井上 稔、森貞 孝一、川村 和幸、竹中 宏子、南 憲治、小森 成人、小川 和彦、
讃井 聡、尾原 健一、西谷 興季、杉田 精教（代理出席）、田中 郁代（代理出席）、日野 泰雄、
伊勢 昇、小林 征治、徳田 弥之、田中 久美子、宮崎 博幸、藤本 健一、奥野 英俊、井本 昌彦

【欠席委員】 魚見 岳史、栗原 岳志、下川 昌、富岡 弘

【傍聴者】 2名

【案 件】

- （1）令和8年度阪南市地域公共交通会議予算案および幹事の指名について
- （2）住民アンケート調査及びバス利用実態調査の結果について
- （3）その他

【結 果】

- ・ 会議及び会議録の公開について、承認を得た。
- ・ 令和8年度阪南市地域公共交通会議予算案および幹事の指名について報告し、承認を得た。
- ・ 住民アンケート調査及びバス利用実態調査の結果について、報告し承認を得た。

【質疑応答】

1) 令和 8 年度阪南市地域公共交通会議予算案および幹事の指名について

(委 員) 令和 8 年度予算について、国の補助金はないのか。地域公共交通計画の策定にあたり国の補助金についてはどのようなになっているのか。

(事務局) 今年度を実施している調査業務については国の補助金を活用する予定であり、約 300 万円の交付決定を頂いているところである。来年度に報告する令和 7 年度決算においては歳入にて国の補助金については計上する予定である。

(会 長) 原案通り承認するという事でよろしいか。

(異議なし)

2) 住民アンケート調査及びバス利用実態調査の結果について

(委 員) 今回 4 つの地域で集計されているが、それぞれの地域がどの辺になるのかを示しておくと思やすくなるので、今後、お願いしたい。

次に、4 つの地域に分けた理由を伺いたい。アンケートでは町丁目も聞いているのでもう少し細かい集計ができると思う。そうすることで、例えば、どの地域でどれだけ外出に困っていて、特にどういう内容で困っているのかということがより解像度が高い形（町丁目レベル）で出てくるのではないかと。今後その施策を検討していく上では重要と考える。

また、19 ページの利用頻度の増加、15 ページの増加につながるサービス内容、利用回数等なども、その頻度を中央値で取って、その回答した人数をかけて、合計でどれくらい増えるかを推計して提示していただきたい。今の資料のグラフではピンク色とかオレンジになっているところが非常に重要な施策のように見えるが、実はサンプル数を見ると少なく、総量でいうとこのサービス回数というのはあんまり利用の増加につながらない可能性がある。

(事務局) 1 点目の 4 地区については、前回の計画が 4 地区で分析していたことを踏まえた点と、住民基本台帳などもこの 4 地区で構成していることから、居住地の分類に使用している。更に詳しい地域での分析については、住居表示がされているところは限定できるが、例えば箱作など地域を限定できない場合もあるので、難しいかもしれない。ご提案いただいた分析方法については、追加できるか検討したい。

(副会長) 8、9、10 ページにあるサンプル数で、大文字 N のサンプル数と小文字の n のサンプル数が併記されているが、どういう意味か。また、新聞などを見ていると新たな交通サービスを始めている会社などもあると思う。そのような事業者を活用することも検討するべきではないか。

(事務局) 小文字の n は回答していただいた方の人数で、大文字の N は複数回答が可能な設問で回答されていた回答数の合計を示している。複数回答での選択肢が回答者の何人が回答していたかは、回答の数を小文字の n の人数で割って、何割の方の意見かを計算している。それぞれの意味について説明を加える対応としたい。

(副会長) 12 ページのバスの利用状況では年齢に関係なく 5 割、6 割はバスを使ったことがないとなっている。次にどうすれば乗るようになりますかの設問はあるが、なぜ使っていないのかの設問はない。使っていないには 2 通りあり、一つは必要がないというもの。「駅から近い」とか、「車があるからいらぬ」など。もう一つは「使いたいけど使えない」があつて、後者が重要になる。

そもそも市民全体の 4 割ぐらいしか使っていないので、その方々をもっと増やすのはなかなか大変なことなので、この使っていない 5 割、6 割の中から 1 割ぐらい使ってもらえるようにすることが今後大事なことで、全体を少しでも上げたい。

(事務局) 指摘のような、使っていない理由という形では聞いてはいない。何をすれば使いやすくなるか、という間接的な聞き方をしている。

(副会長) 使わないけどとりあえず答えてみようかと、もうちょっと何とかしてくれたら使うというのではかなり違うので、この後者の方をなんとか見つけ出すようなことを、考えていただきたい。調査結果からは無理だとしても、もし可能であれば、追加調査について検討するなどして、そういう潜在需要、あるいは顕在化しやすい、もしかしたら使ってもらえるかもしれないという回答を見つけ出せるようなことを検討していただきたい。

(事務局) 調査で聞いている満足度の方で不満度が高い方に対して理由を聞いており、その中には使っていない方もいる可能性もあるので、バスを使っているか使っていないかはクロス集計で出すことは可能なので、そういう集計で抽出できるか確認する。

(副会長) 満足度と重要度の関係のグラフで、四象限の相対評価として、左上のところが大事で優先順位も高いという意味ではそのとおりだが、残念ながら横軸の満足度が今回は全部がマイナスである。つまり、皆さん満足しておらず、強いて言えばこういう順番ということなので、順位の高い二つ、三つだけやれば良いということではなく、全部は一度にできないから順位をつけているということを確認しておく必要がある。

今、少ないバス利用者や公共交通利用者を増やしていくためにはどうしたらいいのかにつなげることが重要である。今の対策プランでもいいと思っている人たちでもあまりお金出そうと思わないなど、今後更に様々な分析がでてくると思うが、市の負担ということは市民一人一人が出す税金であるので、利用者が出す運賃とを考え併せながら、どういうシステムにしていくか考えていく必要がある。

当然、バス運賃の値上げも含めて考えていく必要があるし、バスを利用しない人たちが利用す

る人に対してどういうふうに、どのぐらい支援してもいいかということも重要なことで、その組み合わせを考えていかないといけない。そのためには、できるだけ効率よく利用している人を増やすためにはどんなルート・ダイヤがよいかということと、もう一つ、使えない・使いたいけど使えない人たちがちょっとでも使いやすくするためにはどうしたらいいかということ、組み合わせた形で最終的に計画に取り込んでいく必要がある。これはコメントなので回答は不要である。

(会 長) ご指摘は、次回および次回以降、新たな計画に直結する部分なので、今の意見を真摯に受け止めて、次の案のたたき台に活かしていきたい。

(委 員) アンケートの結果には市民の多くの声が反映され、この通りだと思う。ただし、家族などの送迎によってバスを使わない人も多く、車で送迎する側の意見も入れると良いと思う。また、買い物等でもどこに行くにも車を利用している人にも今回のようなアンケートで聞くと良いのではない。今回のアンケートのなかで、市によるバス運行への負担、税金で運行されている認識がなかった。車の維持費用が高騰していくなかで、現状で混雑もなく車が利用しやすいなかで、車利用者にも意見を聞くと良いと思う。

(事務局) 今回のアンケートでは、バスの利用者だけでなく、利用者以外の方にもアンケートを送っており、免許返納についての分析などもおこなっている。結果にあるように、ほとんどの方が、返納意思がないなかで、返納すれば他の交通手段がないという人もいるといった分析結果も出ている。こういった点や意見も踏まえ、新たな計画に反映していきたい。

(会 長) いただいたご意見は、新年度に検討する課題であり、引き続き検討していく。副会長のご指摘や意見についても、事務局と市で修正を加え結果として取りまとめをさせていただくこととしたい。

(委 員) 市役所と箱作駅前と市民病院は、市民がみんな利用しているのに、緑ヶ丘・さつき台コースだけが市役所を経由しない。できれば経由されるとありがたいと思う。

(事務局) 個別のバス停については、調査の利用実態を分析しながら検討していきたい。あくまで需要と供給で決めていくことになると思う。補足すると、現在の緑ヶ丘・さつき台コースはもともと路線バスが尾崎駅と和泉鳥取を結ぶところを中心に巡回するコースを運行していたので、それを踏まえたコースとなっている。

(副会長) 路線ごとの利用目的やそれに応じた時間帯などはわかるが、乗り換えの回数の設問については、鉄道を含めて回答しているかどうかなど、回答の回数の傾向を見ても扱いが難しそうである。乗り換えの回数を聞かれた理由は何であったか。

(事務局) 直通で病院などに行けなくてもコミュニティバスのルートを乗り継ぎで行けるといったネットワーク構築などを検討するために、乗り換えの設問を設けている。

(副会長) 乗り換え回数と、乗り換え時間について許容されるかどうか、電車でもかなり待つことはあ

り、選択できない・選びようがないと移動時間のロスが発生する。乗り換えはできるけど、時間はロスするということはある。そういう場合は、乗り換えという対象にはならないと考える。阪南市で今後どういう仕組みを考えて、どんな情報が必要かという考えがあれば、伺いたい。

(事務局) これまでのこのコースの体系は、まず持続可能な形で整える必要がある。本市の財政状況、今後の人口の減少などから、全てに応えるのが厳しいというのは他市でも同じであるが、特に本市は厳しい状況にある中で、何を選択していくのかを議論していくために、調査を実施したものである。乗り継ぎも含め、行きたいところに行けるという評価は、例えば本数は少ないが乗り継ぎが少ない方がいいのか、もしくは乗り継いででも便数が多い方がいいのかなど、複数の選択肢があると思うので、今回の調査結果を踏まえ、どのような形にしていくのが良いか、次回以降議論していきたい。

(副会長) よろしくお願ひしたい。最後に、次の計画策定に関わることとして、先ほどのアンケート調査にもあったが、タクシー利用の仕方について、頻度や使い方について報告はあったが、相乗りのような使い方については設問がなかった。個別の利用に対するデマンドや乗り合いは、結局一人一人になって、なかなかうまくいっていない。乗り合いのタクシーとして制度化しなくても、近所の人何人か集まればコミュニティでグループを作って一緒に出かけるといった、通常のタクシー利用の範囲内でのやり方もあると思うので、そういったことも、今回のデータでわかるのではないかな。

バスの利用者そのものが少ないので、この少ない人たちにバスサービスをもっと上げていこうというのと、なおさら運営負担が増えるだけになる。これは大変なので、他の交通手段としてタクシーなども一緒に考えていく必要がある。今回の調査で直接聞いていないとしても、将来の可能性などに関しては、今後、そういった取組について声を聞ける場があれば聞いていただき、導入できるのであればどこかで導入することを検討していただくと良いと思う。

(委員) この乗り込み調査の場合は、どの回答もシングルアンサーだと思うが、41 ページの利用目的の集計などで合計が 100%を超えるところがある。複数回答を集計しているケースもあるのか。

(事務局) 集計方法について確認する。

(会長) いただいたご意見は、新年度に検討する課題であり、引き続き検討していく。副会長の指摘や意見についても、事務局と市で修正を加え取りまとめをさせていただくこととしたい。

(異議なし)

3) その他

特になし

【午後 4 時 3 0 分閉会】